

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和8年度 技術情報第13号（水稻のトビイロウンカ）について（送付）

水稻のトビイロウンカについて、下記のとおりとりまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



令和8年度 技術情報第13号

南さつま市金峰町（農業開発総合センター内）において、水田予察灯で、海外飛来と考えられるトビイロウンカ成虫の誘殺が、6月21日、7月6日を中心に確認されました。また、7月上旬に早期水稻ほ場で本種の短翅型雌成虫の発生も確認されました。今後の急激な増加を見落とさないようには場内を見回り、適期防除に努めて下さい。

1 対象病害虫 トビイロウンカ

2 対象作物 早期水稻（晩生品種）、普通期水稻

3 予察の根拠

- (1) 農業開発総合センター内の水田予察灯にトビイロウンカが6月21日の4頭、7月6日の15頭を中心に誘殺された（表1）。これらは、同時期に九州に停滞した梅雨前線の影響により、海外からの飛来したと考えられる。
- (2) 同センター内の早期水稻ほ場における払い落とし調査において、7月2日及び7日に増殖率の非常に高い短翅型雌成虫が各日1頭ずつ確認された。
- (3) 向こう1か月の天候予報では、九州南部は気温が高いと予想されており、発生に好適な条件となる。

4 防除対策及び防除上注意すべき事項

- (1) 早期水稻では、「なつほのか」などの晩生品種で坪枯れ被害が発生する恐れがあるため、ほ場内の株元における発生状況を確認し、収穫までの日数を考慮し、必要に応じて防除を行う。
- (2) 普通期水稻では、箱施薬剤の防除効果が低下する8月以降を目安として防除を行う。防除適期は、6月21日の飛来由来が8月10～13日頃、7月6日の飛来由来が8月23～27日頃と予測される（図1）。
- (3) 防除薬剤は表2を参考に選定した上で、収穫までの日数等の登録内容を遵守する。
- (4) 本種は世代が進む毎に急激に増加し、坪枯れ等の被害をもたらすことから、発生を認めたら速やかに防除する。
- (5) 本種の発生は地域やほ場間差が大きく、ほ場内の分布にも局在性があるので、ほ場全体における株元の発生状況を確認する。
- (6) 液剤や粉剤で防除する場合は、農薬が株元に十分届くよう散布する。

5 参考データ

表1 60W水田予察灯（南さつま市金峰町）におけるウンカ類の誘殺虫数（6月21日～7月9日）

日付	トビイロ ウンカ	セジロ ウンカ	ヒメトビ ウンカ	日付	トビイロ ウンカ	セジロ ウンカ	ヒメトビ ウンカ
6月21日	4	43	2	7月1日	0	0	0
6月22日	1	1	0	7月2日	1	23	5
6月23日	0	2	0	7月3日	1	49	0
6月24日	0	0	0	7月4日	欠測	欠測	欠測
6月25日	0	1	0	7月5日	欠測	欠測	欠測
6月26日	0	4	0	7月6日	15	5	2
6月27日	0	6	0	7月7日	3	17	1
6月28日	0	4	0	7月8日	1	2	0
6月29日	0	19	1	7月9日	0	0	1
6月30日	0	4	0				
合計	5	84	3	合計	21	96	9

注）欠測は電球切れによるもの

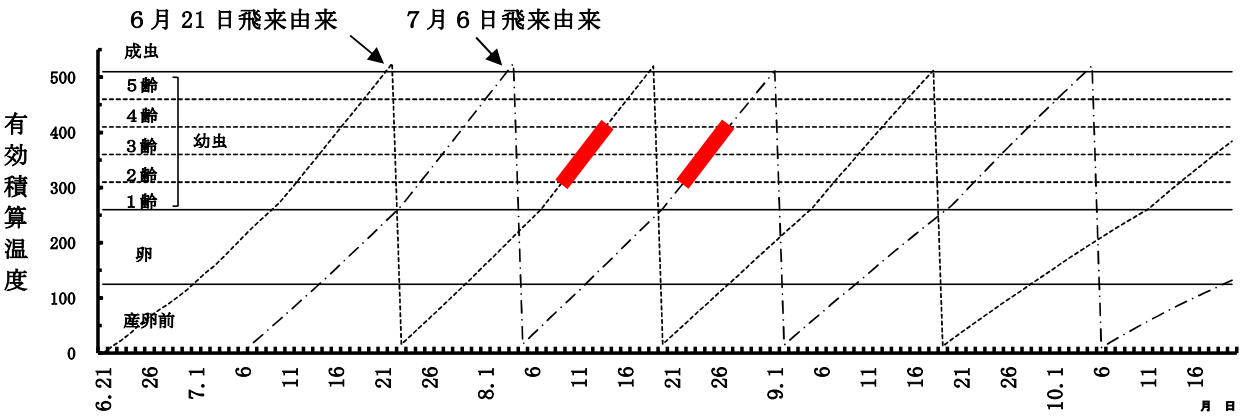


図1 6月21日、7月6日の飛来（誘殺）に由来するトビイロウンカの発生予測図

注1）太線部分は、防除適期を示す。

注2）気温は加世田のアメダスデータ（気温の低い地域では予測より2～4日程度遅れる）

表2 トビイロウンカの主な本田施用剤（令和8年7月10日現在）

農薬名	使用時期	有効成分
エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	スルホキサフロル
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	スルホキサフロル
エミリアフロアブル	収穫7日前まで	フルピリミン
オーケストラ粉剤DL	収穫7日前まで	ベンズピリモキサン
オーケストラフロアブル	収穫7日前まで	ベンズピリモキサン
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	エトフェンプロックス
トレボン乳剤	収穫14日前まで	エトフェンプロックス